

たくさんありすぎて
ひとつを**選**ぶのが
いちばん大切なものが
わからない
けれど今
私にできることは
ただひとつ



星野富弘 花の詩画集最新刊『足で歩いた頃のこと』収録作品初展示

私にできることはただひとつ

2018年7月24日(火) - 10月21日(日)

開館時間 9:00-17:00
休館日 8/13(月)、27(月)、9/10(月)、25(火)、10/9(火)
観覧料 一般 500円(400円)・小中学生 300円(260円)
※()内は20名以上の団体、JAF 会員料金
※障がい者手帳等をお持ちの方は観覧料の半額

星野富弘美術館
〒 8 6 9 - 5 5 6 3
熊本県葦北郡芦北町大字湯浦 1439-2
TEL&FAX: 0966-86-1600
<http://www.hoshino-museum.com>

花の詩画集最新刊『足で歩いた頃のこと』収録作品初展示

私にできることはただひとつ

不慮の事故から2年半後、お見舞いの手紙に返事を書きたい一心でペンを口にくわえて初めて文字を書きました。その後、手紙の余白には花の絵を描くようになり、手紙はいつからか、花の絵に言葉を添えたものになりました。詩画は、絶望の淵に立つ星野富弘に再び生きる希望を与え、それまで気づかなかった人の温かさや、草花の驚くばかりの美しさを教えてくれました。当然のことが

当然ではなくなり、詩画を描くという本格的な創作活動を始めてから40年以上が経ちます。星野は、大学生時代に松尾芭蕉のような昔の旅に憧れ、知らない土地を歩きまわる旅に出たことがあります。それは、自分の限界をためすための試みであり、自分に出逢うための旅でした。星野は、「何を描きたいのかははっきりしないまま書き始めたり、描いているうちに最初思っていたことから外れたりする

こともある。詩画を描くことは、あの時のように、驚いたり迷ったりしながら、行き先もわからず歩き続ける旅のようだ。」と言っています。本展では、昨年6月に出版された最新刊、花の詩画集『足で歩いた頃のこと』（偕成社）に収録されている、2011年から2016年までの間に描かれた”今を生きる”星野富弘の詩画作品を展示するとともに、エッセイの一部を紹介します。心に驚きと感動のいのちが息づいている限り続く星野富弘の壮大な旅。一輪の花の中に広がる無限の世界をご堪能ください。

同時開催「夏の展示」

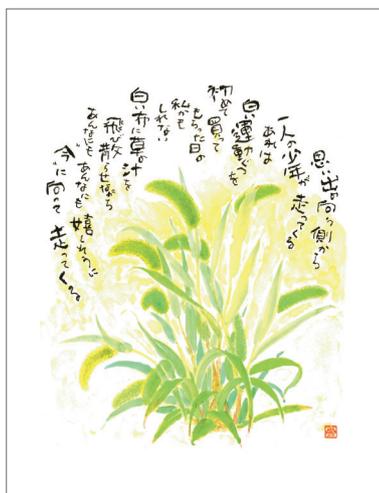
夏の草花を題材にした作品を展示します。



「あさがお」1980年



「つばめ」2016年



「ねこじゃらし」1981年



星野富弘

1946年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。群馬大学教育学部卒業後、中学校の体育教諭になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したとき誤って頭部から転落。頸髄を損傷。首から下の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵をかきはじめる。前橋で最初の作品展を開く。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年、高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。1991年群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。著書多数。

次回展示「私は旅人」同時開催「秋の展示」

10月23日（火）～12月24日（月）
黒のサインペンやフェルトペン等を使用し、線の掛け合わせによって色、質感、立体感が表現された緻密なペン画を紹介します。1981年から11年間、月に一度、新聞に連載されたペン画を掲載した花の詩画集『速さのちがう時計』に収録されている作品を中心に紹介します。「秋の展示」では、秋の草花を題材とした作品を展示します。



- 南九州西回り自動車道
芦北 IC から芦北町湯浦方面へ 12分。
- 肥薩おれんじ鉄道
佐敷駅から車で 10分。
湯浦駅から徒歩で 20分。
- JR九州新幹線
新水俣駅から車で 18分。

星野富弘美術館

〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町大字湯浦 1439-2
TEL&FAX: 0966-86-1600
<http://www.hoshino-museum.com>